

平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社博展

コード番号 2173 URL <http://www.hakuten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長

(氏名) 田口 徳久

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長

(氏名) 玉井 昭

TEL 03-6278-0010

四半期報告書提出予定日 平成26年11月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	2,891	6.3	79	△40.5	78	△41.0	42	△47.7
26年3月期第2四半期	2,718	25.6	134	△0.9	132	△1.5	80	△4.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	11.91	11.62
26年3月期第2四半期	23.48	22.33

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	2,667	1,111	41.6	313.27
26年3月期	2,854	1,110	38.8	316.94

(参考)自己資本 27年3月期第2四半期 1,109百万円 26年3月期 1,108百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	14.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,500	16.0	330	21.1	308	15.1	183	12.0	51.65

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当第2四半期累計期間において新株予約権の行使がされております。業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当該新株予約権行使後の発行済株式数により算定しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期2Q	3,543,200 株	26年3月期	3,496,600 株
27年3月期2Q	— 株	26年3月期	— 株
27年3月期2Q	3,526,704 株	26年3月期2Q	3,418,298 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。なお、上記業績予想のご利用にあたっては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、平成26年12月2日(火)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で使用する決算補足説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期財務諸表 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第2四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
3. 補足情報 .....	8
生産、受注及び販売の状況 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策及び金融政策を背景に、企業収益や雇用・所得環境に改善の傾向がみられるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動や海外景気の下振れが懸念されるなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社の属する広告・イベント業界におきましては、日本経済の緩やかな回復傾向に伴い、顧客企業における広告宣伝投資、販促関連投資に復調の動きが見られ、堅調に推移しております。

このような環境の中で当社は、中期ビジョンである「Be a PARTNER of EXPERIENCE MARKETING」(経験価値提供型マーケティング・パートナーになる)に則り、Experienceマーケティングサービス(人と人が出会う“場”・“空間”とそこで生み出される体験に焦点を当て、感動価値・経験価値を最大化し、クライアントのブランド価値や商品価値向上をともに実現していくこと)の提供を通じて、クライアントのマーケティング・パートナーへと進化すべく、中期経営計画で策定した下記3つの取り組みを推進してまいりました。

#### ①顧客との永続的な共存共栄を実現するマーケティング・パートナーへの進化

前事業年度より注力している「点」のサポートから「線」のサポート、そして「面」のサポートへと、クライアントごとの取引シェアを拡大する取り組みを強力に推進してまいりました。

新商品発表会や全国キャラバンイベント、大規模なカスタマーイベント等、クライアントが行う一連のマーケティング活動をフルターンでサポートし、潜在顧客の掘り起こしや見込み顧客の創出、各種ブランディング活動等、直接的にクライアントの売上増加に寄与するマーケティング・パートナーとして、クライアントのマーケティング戦略の立案・実施に参画する取引も増加してまいりました。

#### ②次世代の基幹事業への進化

前事業年度より本格的に進出した、コンファレンス&コンベンションサービス事業、商環境サービス事業、デジタル・マーケティングサービス事業を、それぞれ次世代の基幹事業へと進化させるべく取り組んでまいりました。

各事業とも当社の新たなサービスメニューと位置づけ、新規クライアントの開拓はもとより、主力事業である展示会出展サービス事業やイベント主催サービス事業における現行クライアントからの新規プロジェクト獲得等を重ね、新たな収益の柱として成長しつつあります。更なる成長スピードを速めるため、専門性の高い人材の採用や事業インフラの拡充等を行い、より強固な事業基盤作りを推進してまいります。

#### ③グローバル対応が可能なパートナーへの進化

クライアントのニーズが高まりつつある、グローバルでのマーケティングサポートサービスを可能とするビジネスインフラの構築、サービスコンテンツの創出に挑戦してまいりました。

海外パートナー会社の発掘・選定や、海外展示会の視察による業界動向の研究、海外で活躍できるグローバル人材の採用等を行い、顧客満足度の高いサービス提供が行えるよう取り組んでおります。

今後も中期ビジョンの実現に向け上記3つの取り組みを強力に推進し、差別化された高付加価値の提案を行っていくことで、更なるシェア拡大を目指してまいります。

また、平成25年7月に資本業務提携を行い関連会社となりました株式会社アイアクト(本社：東京都渋谷区、代表取締役：鈴木統夫)の大阪事務所に「西日本営業所」を開設いたしました。西日本地域において新たに営業拠点を設けることで、新規顧客の開拓並びに既存顧客へのサービス拡充を図り、より一層の事業の拡大に努めてまいります。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は、新規事業であるコンファレンス&コンベンションサービス、商環境サービス、デジタルマーケティングサービスが順調に推移したことにより、28億91百万円(前年同四半期比6.3%増)となりました。

一方、利益に関しては、中期ビジョン実現のため鋭意取り組んでいる屋外での大規模集客イベントやデジタルコンテンツを活用したイベント等の戦略的チャレンジ案件が増加したことなどから、外注原価率の上昇等により売上総利益は前年同四半期と比べ1.2%増の8億57百万円となりました。このため、中長期的な成長力確保のため当期より新たに導入した人事制度による人件費の増加分や新規事業拡充のための人材補強費など先行投資的な費用を当四半期累計期間の増収分では回収には至らず、当第2四半期累計期間の営業利益は、79百万円(前年同四半期比40.5%減)、経常利益は78百万円(前年同四半期比41.0%減)、四半期純利益42百万円(前年同四半期比47.7%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における財政状態は、資産合計26億67百万円(前事業年度末比6.6%減)、負債合計15億56百万円(前事業年度末比10.8%減)、純資産合計11億11百万円(前事業年度末比0.1%増)となりました。

#### (流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は21億44百万円(前事業年度末比2億10百万円減少)となりました。これは、売掛金の回収が進んだことにより売掛金が前事業年度末比3億86百万円減少したことが主な要因となっております。

#### (固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は5億22百万円(前事業年度末比22百万円増加)となりました。これは、基幹業務システム改修のための投資等により無形固定資産が前事業年度末比38百万円増加したことが主な要因となっております。

#### (流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は8億35百万円(前事業年度末比3億8百万円減少)となりました。これは、買掛金が前事業年度末比2億92百万円減少したことが主な要因となっております。

#### (固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は7億20百万円(前事業年度末比1億19百万円増加)となりました。これは、新規借入が約定返済を上回ったことにより長期借入金が前事業年度末比99百万円増加したことが主な要因となっております。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は11億11百万円(前事業年度末比1百万円増加)となりました。これは、新株予約権の行使が行われたことにより資本金及び資本剰余金がそれぞれ前事業年度末比4百万円増加したことが主な要因となっております。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ1億66百万円増加し、当第2四半期会計期間末には、12億17百万円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は、次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は85百万円(前年同四半期は1億40百万円の獲得)となりました。

これは主に、税引前四半期純利益78百万円や売上債権の減少額3億72百万円が、仕入債務の減少額2億92百万円を上回ったこと等によるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は18百万円(前年同四半期は1億79百万円の使用)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出12百万円及び無形固定資産の取得による支出10百万円等によるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は99百万円(前年同四半期は1億34百万円の獲得)となりました。

これは主に、長期借入れによる収入3億50百万円が、長期借入金の返済による支出2億6百万円及び配当金の支払額42百万円を上回ったこと等によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期累計期間における業績経過は、概ね計画通りに推移しているため、通期の業績予想につきましては、平成26年5月2日の決算発表時に公表いたしました業績予想から変更はございません。

## 2. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,050,759	1,217,637
受取手形	20,457	34,436
売掛金	1,129,343	742,385
仕掛品	62,626	69,331
原材料及び貯蔵品	1,601	3,228
その他	92,981	79,792
貸倒引当金	△2,869	△2,086
流動資産合計	2,354,901	2,144,725
固定資産		
有形固定資産	192,039	181,149
無形固定資産	80,134	118,253
投資その他の資産		
その他	229,639	225,205
貸倒引当金	△1,805	△1,775
投資その他の資産合計	227,834	223,430
固定資産合計	500,008	522,833
資産合計	2,854,909	2,667,558
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	506,109	213,660
1年内返済予定の長期借入金	345,434	389,030
未払法人税等	13,258	9,827
賞与引当金	101,966	60,186
その他	177,036	162,673
流動負債合計	1,143,805	835,378
固定負債		
長期借入金	562,135	661,959
その他	38,933	58,740
固定負債合計	601,068	720,699
負債合計	1,744,873	1,556,077
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	165,712	169,851
資本剰余金	145,712	149,848
利益剰余金	795,643	788,695
株主資本合計	1,107,068	1,108,396
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,147	1,573
評価・換算差額等合計	1,147	1,573
新株予約権	1,819	1,510
純資産合計	1,110,036	1,111,480
負債純資産合計	2,854,909	2,667,558

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	2,718,847	2,891,192
売上原価	1,871,227	2,033,309
売上総利益	847,620	857,882
販売費及び一般管理費	713,347	778,031
営業利益	134,272	79,851
営業外収益		
受取利息	10	13
受取配当金	55	67
投資有価証券売却益	—	87
貸倒引当金戻入額	1,062	813
受取補償金	—	1,212
違約金収入	900	—
保険返戻金	756	—
雑収入	810	808
営業外収益合計	3,596	3,001
営業外費用		
支払利息	4,428	4,258
雑損失	667	232
営業外費用合計	5,096	4,491
経常利益	132,772	78,361
税引前四半期純利益	132,772	78,361
法人税、住民税及び事業税	19,096	6,454
法人税等調整額	33,430	29,902
法人税等合計	52,527	36,357
四半期純利益	80,245	42,004



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	132,772	78,361
減価償却費	17,862	19,997
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△4,023	△813
賞与引当金の増減額(△は減少)	△44,756	△41,779
工事補償引当金の増減額(△は減少)	△65	—
工事損失引当金の増減額(△は減少)	△8,099	—
受取利息及び受取配当金	△66	△80
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△87
支払利息	4,428	4,258
売上債権の増減額(△は増加)	263,307	372,980
たな卸資産の増減額(△は増加)	31,392	△8,332
仕入債務の増減額(△は減少)	△29,203	△292,448
未払金の増減額(△は減少)	△12,774	△33,038
未払費用の増減額(△は減少)	4,040	△6,349
未払消費税等の増減額(△は減少)	△13,530	28,634
預り金の増減額(△は減少)	△13,547	△7,046
その他	△18,683	△14,133
小計	309,053	100,122
利息及び配当金の受取額	66	80
利息の支払額	△4,436	△4,316
法人税等の支払額	△164,382	△9,944
営業活動によるキャッシュ・フロー	140,301	85,941
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△63,466	△12,973
無形固定資産の取得による支出	△16,364	△10,141
投資有価証券の取得による支出	△184	△185
投資有価証券の売却による収入	—	319
関係会社株式の取得による支出	△100,203	—
敷金及び保証金の差入による支出	△2,061	△150
敷金及び保証金の回収による収入	2,898	4,696
その他	△28	△28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△179,409	△18,464
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	350,000	350,000
長期借入金の返済による支出	△175,518	△206,580
リース債務の返済による支出	△3,514	△9,945
株式の発行による収入	552	7,967
配当金の支払額	△36,798	△42,040
財務活動によるキャッシュ・フロー	134,721	99,401
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	95,613	166,878
現金及び現金同等物の期首残高	990,970	1,050,759
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,086,583	1,217,637

## (4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

## 3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

## (1) 生産実績

当社は、企業や団体の広告活動・販促活動に伴う、情報伝達を目的とした各種イベント及びマーケティングツールの企画・制作・運営を主たる業務として行っており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

## (2) 受注状況

前第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

当第2四半期累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
コミュニケーションデザイン事業	2,714,182	110.6	1,368,656	95.9
合計	2,714,182	110.6	1,368,656	95.9

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

当第2四半期累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
コミュニケーションデザイン事業	2,714,656	100.0	1,308,661	95.6
合計	2,714,656	100.0	1,308,661	95.6

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (3) 販売実績

前第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

当第2四半期累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	前年同四半期比(%)
コミュニケーションデザイン事業(千円)	2,718,847	125.6
合計(千円)	2,718,847	125.6

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

当第2四半期累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	前年同四半期比(%)
コミュニケーションデザイン事業(千円)	2,891,192	106.3
合計(千円)	2,891,192	106.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。